御 学校だより

２０２５年１１月１１日
藤沢市立御所見中学校
校　長　山田　大

新人大会・市内駅伝～勝っても負けても、笑顔に涙～

１０月４日（土）から藤沢市中学校新人大会が始まりました。運動部にとっては３年生が引退して新チームで臨む大会です。１０月１２日（日）には市内駅伝大会も行われました。４月から「努力の上の辛抱という棒を立てて、そこに花を咲かせる」ということを言い続けていますが、試合を観戦する中でそんな場面をたくさん目にすることができました。

たとえ負けている試合であっても、諦めずに最後まで大きな声を出して仲間を励ます。大量リードされても粘り強く点差を縮める。ピンチの場面でも落ち着いて切り抜ける。しかし、花が咲くまではあともう一歩、残念ながら負けてしまう試合が多くありました。

なかには、勝てると思っていた相手に予想外の大敗を喫して、ぼう然とする選手の姿が強く印象に残った試合がありました。試合後に顧問の先生が選手に感想を聞いたところ「頭が真っ白になりました」と答えていたそうです。大変ショックで悔しい思いを味わったことでしょう。これもいい経験です。スポーツや真剣勝負だからこそ大きな挫折を経験し、その悔しさから、勝つために更に努力を重ねたり精神的にたくましくなったりします。それを証明するように、後日行われた湘南ブロック大会では、互角の相手に競り勝ってベスト４進出を決めました。準決勝・決勝を残していますが、見事に花を咲かせた瞬間でした。

一方で、市内駅伝大会では男女ともに順位としては、十分に満足のいくものではなかったのですが、３年生にとっては最後となる舞台で、自分の全力を出し切った爽やかな笑顔が印象的でした。特に女子のアンカーがゴールテープを切る時に見せた満面の笑顔は、辛抱という棒に大輪の花を咲かせた瞬間でした。

文化祭ステージ発表　～昨年に引き続きクリエイティブな時間を満喫～

１０月２９日（水）の５，６校時に文化祭ステージ発表が行われました。これは昨年度から始まった新しい行事です。コロナ禍により展示のみで行われていた文化祭から、有志や部活動のステージ発表を行い、観客も一体となって盛り上がった素晴らしい行事となりました。今年も昨年と同様かそれ以上のバラエティーに富んだパフォーマンスが披露され、観客参加型の企画もあり、会場も大いに盛り上がっていました。

今年のオープニングは、出演者が全員でステージに上がって、挨拶するところから始まりました。その後の発表は、放送委員会のイントロクイズはアクシデントにより急きょジャンケン大会に、３年男子ペアのカッコイイ・クールなダンス、恒例となった野球部はスローモーションの笑える演劇、２年生女子ペアのキレのある完成度の高いダンス、３年生による修学旅行の班別行動の２年生にとって参考となるレポート、３年生女子ペアの透き通るような声のアカペラの歌唱、１・２年生女子４人組のチームワーク抜群で息の合ったダンス、３年生女子ペアのスピード感・リズム感あふれるダンス、旧生徒会本部役員による完全オリジナル脚本の「オズの魔法使い」をパロディーにした本格的な演劇、吹奏楽部による迫力ある楽器の演奏とクオリティーの高いパフォーマンスが次々と披露されました。

文化祭ステージ発表は２年目となり、恒例行事になりつつありますが、「全校で楽しめ」「生きる力を育み」「自分も人も大切に」する行事になっています。進行もスムーズで、この成功は文化祭実行委員の皆さんの準備・運営が素晴らしく、ここまで準備を整えるのに相当な苦労があったと思います。文化祭実行委員の皆さん、出演者・観客の皆さんも含め、本当にありがとうございました。御所見中学校の生徒の課題として、「自分の考えや意見を発表する」というアウトプットを苦手としている人が多いようです。自信がないのか、恥ずかしいのか、失敗したくないのか、自分を表現したくないのか…。この文化祭ステージ発表会をきっかけとして、表現・発表する楽しさ大切さに目覚めてほしいと思います。

ごしょみフェスタ～家庭科部・吹奏楽部が参加、ボーンティアが大活躍～

昨年度まで８月に行われていた「御所見夏まつり」と 10 月に行われていた「御所見文化祭（公民館まつり）」を統合して、今年度は「ごしょみフェスタ」として 10 月２５日（土）と２６日（日）に開催されました。

例年、夏まつりでは中学生が模擬店や司会進行の補助にボランティアとして参加し、教職員が青少年育成協力会（青少協）の模擬店で「イカを焼く」お手伝いに参加していました。御所見文化祭には１日目に家庭科部が午前中、午後から吹奏楽部が参加していました。

今年度の「ごしょみフェスタ」は１日目の２５日（土）午前中に家庭科部が手作りストラップの販売と「くるみボタン」の制作体験＆販売、午後から吹奏楽部の演奏発表、ボランティアとして受付と模擬店の補助に中学生が１１人参加しました。ボランティアの参加者は「なかよし砦」で声を掛けられ、くちコミで広がりポスター作成の２名も含め、２日間で２６名が参加し、主催者からよく働いてくれて、とても助かったと感謝の言葉を頂きました。家庭科部は小雨の降る中、例年より少ないお客さんに「ストラップいかがですか～！」「くるみボタンづくりの体験やってまーす！」と元気な声を掛けて販売し、かごに商品を詰めて売り歩く人たちもいました。吹奏楽部は昨年の３階ホールから今年は１階の体育室と会場が変更となりましたが、３ 曲とアンコール１曲を披露し、集まった観客を安定感のある演奏で魅了していました。他にも「三校合同合唱交流会」にも出演した御所見小の校長先生もメンバーの「御所見地区合唱サークル」の合唱や「御所見音頭保存会」による「御所見音頭」の発表に中里小学校の児童が出演しているのを鑑賞しました。

２日目の２６日（日）は１０時から「青少協の模擬店」に御所見小、中里小、御所見中の先生たちが手伝いに集まり、主に「イカ焼き」を担当しました。青少協には各小中学校の PTA の方も参加しており、和気あいあいと楽しく作業・販売を行いました。中学生のボランティアは抽選会や「なかよし砦」の模擬店に１３人が参加して、私は模擬店のポップコーンをサービスで頂いたので、お返しに「イカ焼き」を差し上げました。

遊びに来ていた中学生がイカを焼いている先生に声を掛けてくれたり、小学校の先生と児童がふれ合う場面を見たり、小学校の校長先生や御所見中の先生が「イカ焼きおいしいですよ～！」と大きな声で販売する姿など普段見られない光景を目にすることができ、とても新鮮で、地域の繋がりを感じる素晴らしい一日でした。